

平成 30 年度千葉市少年サッカー 4 年生の部 大会決勝戦評

日時 2018 年 6 月 10 日(日) 会場 フクダ電子フィールド

気象状況 天候:曇り 気温 22 度 ピッチ状況 人工芝

試合時間(20 分-5 分-20 分)

Wings U12 3-1 パサニオール菅田

(2-1, 1-0)

梅雨の走り、天候はくもり、少し肌寒く感じたが、選手達にとっては良かったのかもしれない。

準決勝 2 試合が同時刻にキックオフ、今年度新チームで初参戦の JEF 千葉 U10 を相手に接戦の末 2-1 で勝利し昨年度に続き連覇を狙う WingsU12(以下 Wings)と決勝トーナメント 3 試合を無失点で勝ち上がってきたパサニオール菅田(以下 PHFC)が美浜コパソルにも失点を許すことなく 2-0 で破り勝ち上がり、両チームの優勝をかけた好ゲームを予想される対戦となった。

立ち上がり PHFC は右サイド 13 番鈴木選手を上手く使いサイドを切り込むがチャンスを作れず、Wings はボールを奪うと一気に PHFC 陣内へと仕掛けると 2 分 PHFC 選手の不用意なファールにより左サイドゴールまで約 18m の地点で FK をもらう。Wings のキッカーは小柄だがキックの精度の良い 7 番加藤選手、これをしっかりと直接決めて幸先良い先制点となる。PHFC は今大会初失点となったが、焦らず自分たちのペースでボールを運ぶことに対し、先取点を上げ勢いに乗る Wings は PHFC の DF 陣のパス回しを狙う。7 分にゴール正面を横切るパスをインターセプトした Wings20 番舟木選手がゴール中央から 2 点目となる追加点をあげる。その後お互いが中盤でのボールの奪い合いが激しさを増してきた。

諦めない PHFC の反撃が始まる。追加点を奪われたが焦らずショートパスでつなぐ PHFC は、9 分に中央から崩し 9 番高橋選手のシュートはバーに当たり跳ね返りそれに反応した 12 番江本選手がしっかりと押し込み 1 点を返した。

13 分には Wings の直接 FK を 7 番加藤選手が直接狙うものの 1 番 GK 太田選手がしっかりとキャッチ。18 分には PHFC10 番佐瀬選手がボールを奪い前線の 9 番高橋選手へパス、それをシュートまでいくがバーに跳ね返される。前半の立ち上がり Wings が優位に後半 PHFC が意地を見せ反撃をしかけた見ごたえのある前半は 2-1、Wings のリードで終了した。

後半開始早々、21 分相手陣内でゲームを勧めた PHFC が決勝戦初めてのコーナーキックのチャンス。これにゴール前に PHFC11 番杉本選手が飛び込み、8 番矢部選手が足に当てるがゴールならず

23 分には中盤でのボール奪いに勝った Wings7 番加藤選手が右サイド 11 番山内選手へスルーパス。このボールに対し PHFC1 番 GK 太田選手と 1vs1 に GK 太田選手の判断良く飛び出し身体で阻止した。

少し焦りだした PHFC の選手達、24 分 10 番佐瀬選手がミドルシュートを狙うがゴール届かず。

Wings はボールを奪うと直ぐに前線へつなぐと、25 分 11 番右サイド山内選手が PHFC の GK 前のスペースへボールを入れると 7 番加藤選手が PHFC1 番 GK 太田選手と交錯し、こぼれたルーズボールを Wings 11 番山内選手がひろい PHFC1 番 GK 太田選手を冷静に交わし 3 点目をあげた。

27 分 PHFC12 番江本選手がゴール正面からシュートを打つが GK 加藤選手の正面へ。

28 分 Wings7 番加藤選手のシュートに PHFC1 番 GK 太田選手がはじき、コーナーキックのチャンスを作るが得点ならず。29 分には PHFC10 番佐瀬選手に変わり入っていた 19 番川名選手を下げ、3 番遠藤

選手をDFに置き、攻撃的な布陣に変え点を奪いに行く。30分中央をWings19番千葉選手がボールをうまく運び、左サイドにポジションチェンジをしていた7番加藤選手が左サイドからクロス気味のシュートになるがGK太田選手がしっかりとキャッチ。PHFCも焦らずボールを繋ぎ相手陣内へは行くがなかなか崩せない展開に。WingsDF2番加藤選手から右サイドへのフィードでチャンスを作る19番千葉選手からのクロスにゴール前決定的なチャンスもゴールとはならず。

後半、PHFCは諦めずしっかり対応するDFの選手達の頑張りに攻撃陣がなかなかチャンスを作れず時間は過ぎて行った。アディショナルタイムは1分、最後のチャンスもWingsだった。19番千葉選手から11番山内選手、20番舟木選手とショートパスを繋ぎ、前線の7番加藤選手がシュートしたがPHFC GK太田選手の正面へ。そのまま終了のホイッスル。フリーキックで先制点を挙げ勢いに乗ったWings。反撃するもののゴールが遠かったPHFCに対して、決めるところをしっかりと決め追加点をあげたWingsが、3-1とPHFCを下し、昨年に続き連覇を成し遂げた。

優勝したWingsは技術の高い選手が多く、激しくて正当なボディコンタクトで体をうまく使いみんなでボールを奪い、攻撃の優先順位を意識した、みんなで縦へとゴールを目指すシンプルな戦い方でやりたいことが出来たように感じられ、力強いゲームの内容だった。

PHFCはWingsの攻撃陣に対し、決勝戦まで無失点できたチームだったがWings戦は手こずっていた様子だった。相口の状況を口ながら丁寧にパスを回すというゲーム運びを狙ったのだろうが、Wingsの勢いに、PHFCらしさが消されたゲーム展開となった。堅い守備のデフェンスが持ち味で勝ち上がってきたが、攻撃陣が、なかなか決定機が作れなかったのは残念だったと思うが、最後まであきらめず戦った姿はきつと体の成長と共にまだまだ進化していくことでしょう。

攻守にわたり、しっかりとした戦術で戦っていた両チーム、個々に能力の高い選手も多く、これからが楽しみな選手が多く、今後の成長、活躍に期待できる素晴らしいチームであったと思う。

試合終了直後、ベンチ挨拶では両チームのスタッフが相手チーム選手を笑顔で祝福する姿が観られたのはサッカーだけではなく指導を口常から口っているクラブであろうと思わせられることに感銘を受けた。